

一閉會の辭

右終りて中川會長から各科に對して訓辭を賜はりました。當日は早朝より風まじりの霽降りしきり、寒さ頗る強かりしも、中川校長、關根、西村、後閑、乙部、垣内、岡田、近藤諸先生の御來會もありて、活氣満々たる間に豫定の通りに進行し、午後四時盛なる喝采の裡に閉會されました。

中川會長の訓話に次號に掲げて卷頭を飾りたいと存じて居ります。又文科の報告は別項研究に掲げてあります(N)

編輯の

□こゝに筆を投する前に今年度に於ける「會の生活」を申し上げるのも亦私どもの務のやうに存じます。

□私どもは拙い仕事を残しましたが、一所懸命で働いたといふことに就ては決して虚偽の謙遜を致しませぬ。働きました。けれども、仕事が出来なかつたのでございます。

□私どもの致しました仕事の方針は、どうしても、この會をもつと生々したものにしなければならぬといふ基礎の上に立てました。いろいろ會の生活

やうな状態で、この一年を常に心配しながら過しました。而して私どもの考へますところでは、この二つの問題を解決する方法は只一しかない。然り只一である。即ち「會の擴張」であると決意しました。かういふ考で未入會の方々に御入會をお願致しますにも實は郵便を出す餘悠もありませんでした。が、いろいろ苦心して、先づ會誌の紙質を良くし字數と紙數を増加し、且つ内容を改めることに由つて、爲し得るだけ會員諸姉の御満足を得るやうにすると共に、ごういふことがあつても現在のレベルより以上の會費を集めることはならぬ、もつと少なくしたいといふ方針で、先づ經費中最も大い印刷費の削減を計りました。一方に於て積極的に字數紙數を増すと共に、他の一方には消極的に經費の節減を企てましたので、當然生ずる少々の無理を冒さなければなりませんのでした。實にこの入會御願の郵便を出しました時は、この一舉に由りて會を興すか倒すかの問題が定まるやうに思ひましたので、強い期待と大なる熱誠を以て、この郵便を出したのでございます。さう

を研究しました結果、理科は理科に藉を置かれた方の中僅に二名を除くの外總べて會員として堅く團結して居られます。其の比例 50%であります。技藝科は名前の未入會の方がありますので約30%になるのでこれも見ごとな會合になつて居るのでございます。(本年度末調査)然るに我が文科會に於ては本年の始には卒業生の半數にも足らぬ方の御入會を得たやけでありまして却て續々退會者を見るありさまであるのを見て、これではならぬと深い感想に打たれました。私どもは委員を命ぜられました本年の初に於て相警しめて、申しますやうは、私どもはともすると或は文科會を倒す委員ともなるかも知れぬ。ともかく全力を擧げて會の爲に盡さねばならぬと固く決心いたしました。先づ仕事としては談話會と會誌とに爲し得る限りの力を凝ぐと同時に、會計の上に於ても大に力めなければならぬと存じました。たとへば本年度末に於て理科が298.85技藝科が157.24錢の繰越金を有せらるゝに比して我が會は僅に31.94錢の繰越金を有つて居りましたが、この會誌を印刷しましたので、この残高さへ極めて小數となるといふ

致しますと、入會して下さるとの旨の御返事が續々まわります。その一葉々々ごとに——今憶ひ起すも爽快に存じます——私どもは實に感謝の念に充ちて受取つたのであります。竟に「E」名の方々を新に迎へることになりました時には、私どもは何ともたとへやうのない歡喜に満されたのでございます。「E」といふ數は先年度末の約半數であります。たとへていへば二箇中隊に一箇中隊の増援を得たのであります。2が3となつたのであります。少からぬ力の増加であります。こゝに改めて諸姉に御禮を申し上げますと同時に、この御入會に由りまして、印刷費用の減少を見んとし、會計の欠乏を補ひ、併せて會の仕事の上にも新らしい計畫を試み得るやうにならんとして居ることを報告致し得るやうになりましたことは、我が親愛なる文科會の爲に——我が文科會の前途の爲に心の奥からの歡呼を高く叫びたいと切に思ふのでございます。

□この緊張した一年の終りの最後の頁を書くに際して、自ら生ずる一種の弛緩の間からいろいろの感想の湧起するのを禁じ得ないのであります。「行人」

# 研究

## 次 目

大 正 三 年

に 於 け る

文 科 關 於 學 術 進 步 大 勢

(第一回學術談話會總會報告)

一 其

二 其

に

「自分のしてゐる事が自分の目的になつて居ない程苦しいことはない」と云ひます。

「目的でなくとも方便になれば好いぢやないか」と私が云ひます。

「それは結構である。ある目的があればこそ、方便が定められるのだから」と答へます。

この深みのある會話が、一年を回顧する私の心の中に今更のやうに憶ひ出されます。併し私は「自分のしてゐる事が目的になつて居ない」と自ら明に覺り、又「自分のしてゐる事が方便になつて居る」と知つて居れば少しも苦しいことはないと思ひます。ある目的があればこそ、方便が定められて居て、自分のしてゐる事が方便になつて目的になる筈であるのが、目的になつて居るか、方便になつて居るか一向分らぬ間から、目的を創造し方便を建設し、これに向つて努力して進むところに、眞の苦痛があるかと存じます。また眞の苦痛であればある程、眞の樂しみもあると存じます。この意味に於て私どもは率直に快活に一年の間楽しく働きましたとをよろこび且つ

感謝いたします。

文科會の目的は規程及び内規に明示してあります。併しながら方便としての談話會と會誌とは更にこの規程の廣汎なる深遠なる解釋を許すものとなることは自然の理であり、また勢であると存じます。如何なる解答をなしうるかは今後會員全体の興味ある問題であると存じます。

私どもはこの會誌の編輯を終るに當りて切に明敏なる熱誠なる後繼者によりて、本會の使命が眞に體得せられ創造的建設的なる工夫の工夫に依りてあります。本會の榮えんことを希望してやまないであります。(ひつじ)

## 會 告

### 會費拂込に就きて

今般本會は會員諸君の御便宜を計り振替貯金口座を利用致候事に相定め候就ては今後本會々費は該口座へ御拂込相願度此段通申上候

東京 貳壹五〇貳番  
東京女子高等師範學校

喜多見 さき

### 來年度會費御拂込に就きて

別紙振替用紙封入致置候間便宜御拂込被下度願上候